

玉川上水・野の花だより No. 4

オオアラセイトウと諸葛孔明

中央大学研究開発機構・機構教授 東京大学名誉教授

石川 幹子

2026年 4月22日

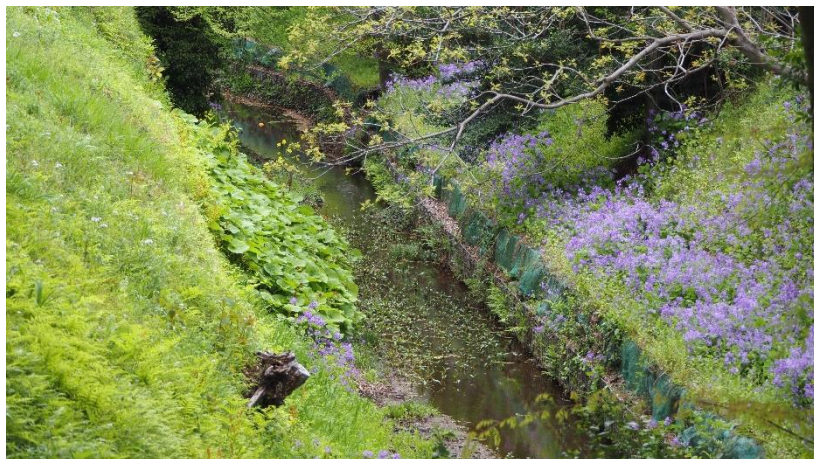
玉川上水は、多摩川の羽村で取水され、小平監視所で、東京都の上水源として東村山浄水場に送られます。現在でも、東京都の上水源の3分の1が、ここから供給されています。小平監視所から杉並区浅間橋までは東京都の清流復活事業により、1986年に再生水が流されるようになりました。しかし、浅間橋で、再生水は神田川に放流され、世田谷区や渋谷区の玉川上水には、一滴の水源すらなく、雨水と周辺からの地下水の流入のみで四谷大木戸に至っています。

暗渠となった渋谷区で、以下に示す写真が、稲荷橋から第二号橋のエリアで、区民の皆さまの請願により、開渠として残っているエリアです。うす紫色に、一面に咲いている花が、オオアラセイトウで、江戸時代に中国から導入されたものです。別名を諸葛菜（ショカツサイ）といいます。諸葛とは、三国志の諸葛孔明であり、戦陣を張っていた時に、この花の根を食用にしたと伝えられています。

2008年、中国四川省で大地震があり、8万5千人もの人々が亡くなりましたが、紀元前230年に構築された古代水利工による灌漑水路網は、ほとんど無傷で、人々の命を守ったものでした（次のページを参照してください）。諸葛孔明は、このシステムにより創り出された広大な四川平野を「沃野千里・天府の地」と讃えました。

玉川上水は、1653年開削され、武蔵野台地を沃野とし、江戸・東京の礎を築きました。時空を隔てて、オオアラセイトウ（諸葛菜）が玉川上水沿いに咲き誇っていることは、遥か古への思いを、偲ばせるものかもしれません。

「朋あり 遠方より来る また楽しからずや」



オオアラセイトウ

諸葛菜

ショカツサイ

2026年4月7日

撮影

稲荷橋より



オオアラセイトウ（別名 諸葛菜） 2026年 4月18日 撮影

参考：諸葛孔明が「沃野千里・天府の地」と讃えた中国四川省都江堰市の古代水利工取水堰と、「都江堰灌漑区域図」。灌漑エリアは、四川省の拠点、成都に至る。

魚嘴

飛砂堰

宝瓶口

古代水利工
230BC. 秦国蜀郡太守 李冰により建設

都江堰灌漑区域図

図版：石川幹子・作成 写真：石川幹子・撮影

灌漑区域図：都江堰市提供